

循環型社会のミクロ経済学（第1回）

本日の授業『循環型社会のミクロ経済学的な思考法』の目標

- ①本授業の目的・方法・意義が何か分かること
- ②循環経済とはどのような経済なのかが分かること
- ③循環経済のミクロ的な動きとは何かが分かること

本日の構成

- 1-0. はじめに（シラバスについて）
- 1-1. 授業の目的・方法・意義
- 1-2. 循環経済のミクロ的な動き
- 1-3. まとめ

1-0. はじめに（シラバスについて）

- ①何を学ぶのか？
 - (1)自然環境を通じたモノの循環の中で、必要なモノや不要なモノの取引のしくみ
 - (2)必要なモノや不要なモノの取引に関わる人々の行動の基本原則
 - (3)循環経済を形成・維持・発展させるための政策の効果
- ②どうやって学ぶのか？
 - (1)ミクロ経済学の視点をを用いて、循環経済の動きを理解する
 - (2)限界的な意思決定の考え方をを用いて、人々の行動を理解する
 - (3)市場均衡の方法を用いて、必要なモノや不要なモノの取引の間の動きを理解する
- ③どのようにして授業を受ければ良いのか？
 - (1)授業で登場する見取り図やグラフは、自分の手で何度もノートに書くこと
 - (2)現実の循環型社会をイメージしながら、授業を聞くこと
 - (3)自分の関心があるモノやゴミを取り上げて、小テストや課題に取り組むこと

1-1. 授業の目的・方法・意義

- ①循環型社会 \equiv 循環経済 = 動脈経済 + 静脈経済
- ②動脈経済と静脈経済のバランス
- ③授業の役割
 - (1)目的「循環経済の基本的な考え方を習得すること」
 - <a>循環経済における人々の行動に関する基本的な考え方
 - 循環経済における取引の動きに関する基本的な考え方
 - <c>循環経済に関連する政策の基本的な考え方
 - (2)方法「ミクロ経済学（消費者行動・生産者行動・市場均衡・政策効果）」
 - (3)意義
 - <a>現実の循環型社会における人々の行動が理解できる
 - 現実の循環型社会に関連する政策の効果が理解できる
 - <c>現実の循環型社会をより良くするためにはどうすれば良いのかが提案できる

1-2. 循環経済のミクロ的な動き

①循環経済を観察する方法

- (1)循環経済のどの部分を観察すれば良いのか？
- (2)循環経済をどのように観察すれば良いのか？

②循環経済のミクロ的な構造と関係

- (1)循環経済における代表的な個人・個別市場の分類とは？
- (2)循環経済における代表的な個人・個別市場同士の関係とは？

③代表的な循環経済のミクロ的な動き

1-3. まとめ

- ①循環経済は動脈経済と静脈経済に分けられるが、両経済のバランスをいかに取れば良いのかがミクロ経済学の視点から見た循環型社会の課題である。
- ②循環経済は、様々な個人と様々な個別市場から構成されているが、その間には取引を通じた関係が存在している。
- ③代表的な循環経済のミクロ的な動きを理解することで、現実の循環経済の特徴や課題について考えることができる。

Memo